

令和7年度第2回一関市スポーツ推進審議会 会議録

- 1 会議名 令和7年度第2回一関市スポーツ推進審議会
- 2 開催日時 令和7年9月22日（月）午後2時から午後3時30分まで
- 3 開催場所 一関保健センター栄養指導室
- 4 出席者
 - (1) 委員 伊藤成子委員、及川圭二委員、小野寺勝委員、佐藤義行委員、
亀谷キイ子委員、菊池正人委員、橋本ゆかり委員、
須藤光子副会長、平野和彦会長、藤原洋委員、佐々木貴浩委員、
阿部富美雄委員、沼倉恵子委員
※欠席者 小幡和夫委員、及川加奈子委員、清田博美委員、
佐々木賢治委員、千葉美幸委員、千葉京子委員、渡邊和貴委員
 - (2) 事務局 小野寺愛人まちづくり推進部長、
平石剛まちづくり推進部次長兼スポーツ振興課長、
小野寺孝良スポーツ振興課長補佐兼スポーツ施設係長、
濱井大輔スポーツ振興課スポーツ交流係長、
阿部和恵スポーツ振興課主査、
菊地海人スポーツ振興課主任主事

5 議題

次期スポーツ推進計画策定に係る説明

- (1) ワークショップ・懇談会の概要報告について
- (2) 第2期一関市スポーツ推進計画の基本理念及び基本目標について

- 6 公開、非公開の別 公開
- 7 傍聴者の数 なし
- 8 平野和彦会長挨拶

皆さんこんにちは。お忙しいところお集まりいただき、ありがとうございます。

会長を仰せつかっております、一般社団法人一関市スポーツ協会の常務理事の平野でございます。よろしく願いいたします。

今回は、第2回ということですが、事前配布されている内容と議題が若干異

なっているかと思いますが、今回の議題の中で、(2)第2期一関市スポーツ推進計画の目標、施策案が概要として示されているようでございますので、ご意見ご質問を伺いながらとなりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

9 協議内容

(1) ワークショップ・懇談会の概要報告について

資料に基づき、事務局から説明を行った。質疑応答等なし。

(2) 第2期一関市スポーツ推進計画の基本理念及び基本目標について

資料に基づき、事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 子どものスポーツ活動機会の充実ということだが、私の娘がミニバスケットボールをやっている。指導者が古い考えで、怒って指導するというのが続いている。それが原因で子どもが続けられないという現状がある。

指導者の研修を充実してもらいたい。子どもの尊厳を傷つける言葉を言う指導者も多い。バスケットボールは特に多く感じる。私はラグビーをやってきたが、ラグビーの世界ではないような世界がミニバスケットボールにはあって、こんなに怒るのかというくらい怒る。

今週の土日もリーグ戦だったが、私の娘が所属しているチームのコーチは、結構怒るコーチで、ただ怒っているだけというか、今の子ども達は怒られ慣れていない。30・40年前よりはメンタルが弱い子どもが多いので、怒られて辞めるという子どもも多い。

指導者に強制的に研修を受けさせてほしい。

もう1点は、子どものラグビーの東北大会が一関で開催されている。今年も11月に開催する。東北大会なので、20数チーム参加する。サッカー・ラグビー場にウォーミングアップする場所がない。それはサッカーでも課題となっていると聞いている。参加者が多いとウォーミングアップする場所がないので、ウォーミングアップする場所を作ってほしい。

事務局 指導者の資質については、時代の流れは変わってきていて、こういったハラスメントは非常に問題とされている。子ども達が安心安全に、もちろん親御さんも安心してチームに預けられるように、今できることもあると思うので、スポーツ協会やスポーツ少年団本部など関係する団

体とも今後、適切な指導者の確保育成について取組を検討したい。

子ども達が、体罰などでスポーツから遠ざかってしまうのは、好ましくないなので、子ども達、親御さんが安心してスポーツを続けられるような環境整備についても努めていきたい。

サッカー・ラグビー場の話もあったが、スポーツ施設の在り方についても、市のスポーツ施設の数が非常に多くなっており、維持管理が難しくなっている。国がスポーツの適正な在り方、指針を示しているので、それに基づいて、別に適正化について見直しをしているが、市民の皆さんが使いやすい環境が一番であり、そのバランスを考えながら対応していく。

委員長 今日、初めてこの第2期スポーツ推進計画の概要の説明ということで、実際には具体的な計画を見てみないと、皆さんからもご質問やご意見がでないのではと感じている。

現行の計画では、目標ごとに示されているが、重複する具体的な計画がいっぱいある。この審議会でも毎年、成果の表が示されているが、重複する部分がいっぱいある。次期の計画では、現行とは違った視点から区分されているようなので、だいぶ重複する部分は消えてくるかもしれないが、できるだけ重複するような項目立てを避けてもらいたいと感じている。

今回は、概要の説明であったが、今後できるだけ重複しないような計画の組立てのほうが、わかりやすく計画を策定できるのではと感じたので、意見させていただいた。

事務局 確かに現行計画では、施策の部分で「再掲」として重複する部分があるので、次期計画ではわかりやすいようにシンプルな施策を示していきたいと考えている。

補足になるが、第3回の審議会では、この基本目標、基本施策、更に具体的な施策について、次の審議会でお示しをしたいと考えている。

事務局 説明がわかりにくく、基本施策の外郭しか今回示していないので、何をイメージしているのか捉えづらと思う。なかなか質問意見が出なくて申し訳ない。次回、細かい施策を示した時にいろいろと話せるのかと

思うが、先ほどお話にあった指導者のことについて、もう少し掘り下げてもよいかと思うので、皆さんからもう少しお話いただければ、次の計画案を作るときの参考にさせていただきたいと思う。

それからもう1つ、施設の話で、サッカー・ラグビー場のお話をいただきましたが、いろいろなスポーツ施設をスポーツ協会で管理しているが、すぐにできるわけではないが、こういうものがあるといいなど、調査する上でも必要だと思うので、せっかくなので是非お話しいただければと思う。

委員 育成の場なのに勝利至上主義に偏っていると思う。バスケットボールの文化がそうなのかわからないが、負けても怒らないというところもある。岩手県の指導者は比較のおとなしいようで、宮城県はもっとひどく、罵声がすごい。一関の大会では、怒っている人が多い。指導者が若くても、年配でも怒っている人が多いので、育成の場ということをもう一度認識してほしい。スポーツなので勝つことは大事であると思うが、私は過程がもっと大事であると思う。負けたから誰が悪いと聞こえてくる時もあるが、もう少し子ども達が楽しめるような指導方法の研修プログラムが指導者にあってもいいのかと思う。

私の娘に限っては、チームの他にビッグブルズに在籍していた人が指導しているコーチングにも参加しているが、コーチングなので怒ることはなく、よく褒める。チームではほとんど褒めることはなく、たまに褒めることがあるくらいなので、コーチングのスキルアップよりも、人として子どもに接するというのを上手くやってほしい。言葉遣い、言葉のチョイスがあまりにも悪い。もう少しオブラートに包めないのか。特に女子チームでは余計に、成長過程での体形の変化を揶揄するようなことを発言したりもするので、子どもの尊厳を傷つけないようなプログラムで座って勉強するような機会があってもいいと思う。

保護者の間でもそういう話題は出ていて、バスケットボールでもあるようだが、参加していない指導者も多いようなので、積極的に参加しなければならないと義務付けたほうがいいのかと思う。

委員 どの競技でも指導の際の罵声というのは、ハラスメントでやってはい

けないとされているが、競技スポーツということで、いけないのは目先の勝利だけにこだわるということ。若い指導者でも多いというのであれば、それはいけないことであると思う。

とにかく言われているとおり、少なくとも小学生の育成の場という認識を持って、チーム内では父母会も、同じ考えを共有して、意思統一すべきだと思う。

本当にハラスメントであるので、指導者に対しての教育は必要であると考えます。将来伸びる子ども達の芽を摘むことは、絶対避けなければならないので、周りである程度強く言ってもいいのかなと思う。

委員 野球競技でも、ちょっとした失敗で大きな声を出す人はいまだにいるので、みんなで止めていかないといけないと思う。

委員 ボランティアでやってもらっているのではなく、長く指導していて、誰も言えないという状況も続いているようで、一度高齢だからやめるといって、比較的若い人に指導をお願いした時期があったが、引き続き指導を続けていたので、若い指導者も来なくなってしまった。コーチが3人いるが、やりたいバスケットボールが違うのでかみ合わず、子ども達が迷ってしまう。指導者の意識が変われば、チームも変わるので、保護者も一緒に考える必要があると思う。

委員 活動するのは子ども達なので、いたずらしたら叱らなければならないが、伸び伸びと道筋を立てながら活動してもらいたい。

委員 ミニバスケットボールはチーム数が多く、子ども達の競技人口も多いが、中学校・高校まで続かない子どもが多い。続けてもらえないのは、もったいないので、続けてもらえるような取組が必要で、スポーツを好きになってもらえれば、大人になっても、スポーツに関わるようになるのではと思うので、そういうことは大事だと思う。

事務局 第2期一関市スポーツ推進計画の基本目標3の基本施策にもスポーツ団体等と連携した指導者の確保育成の項目もあるので、指導者のモラルやハラスメント、資質の面についても、きちっとした指導者確保につながるように展開していきたいと考えている。